

退院調整ルールに関する病院・
ケアマネ対象アンケート調査結果について

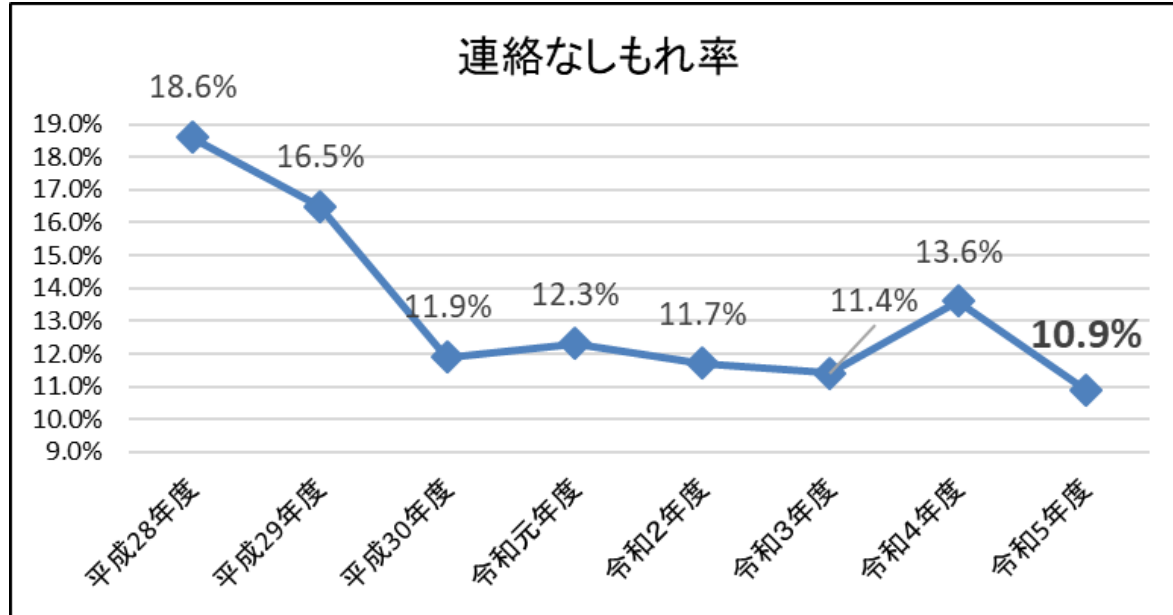
退院調整ルールの手引きの見直しについて

令和6年2月1日 県北保健福祉事務所高齢者支援チーム

ケアマネ対象アンケート調査結果

- ◇目的：
県北医療圏退院調整ルールの運用状況を把握し、必要に応じてルールの見直しを行うため、病院とケアマネージャー間の退院調整の現状把握を目的とした調査を実施する。
- ◇対象期間：令和5年6月～7月
- ◇調査対象：居宅介護支援事業所 141か所
地域包括支援センター 39か所
- ◇回答数(回答率)：
 - ・居宅介護支援事業所：137か所(97.2%)
 - ・地域包括支援センター：38か所(97.4%)

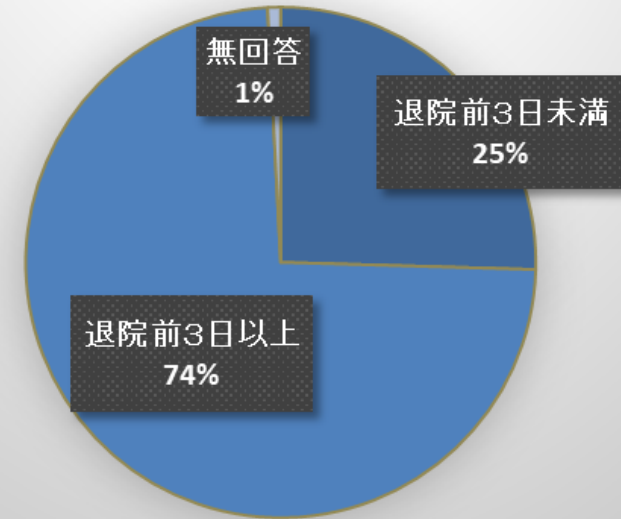
退院連絡の状況（事業所票）



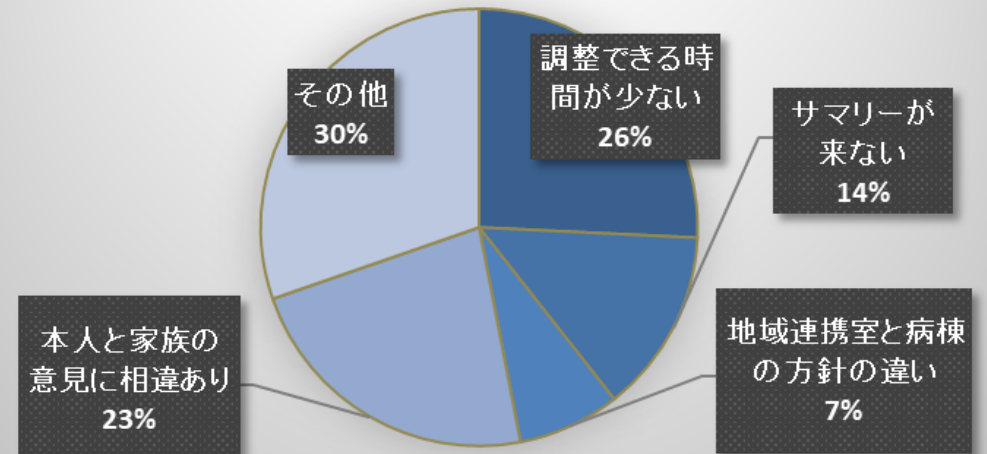
【自由記載より】

- 「サマリーが来ない」について
特に要支援者、白内障、ペースメーカーの電池交換等、短期間の計画的な入院等
- 「地域連携室と病院の方針の違い」について
 - ・ケースワーカーがルールに沿って対応しても、医師、看護師、家族で退院を決定されることがある
 - ・病院ごと、ケースワーカーごとでルールの理解度に差がある
- 「その他」の内容
 - ・退院日の連絡がなかった
 - ・退院前日や退院後に連絡があった
 - ・本人と面会できないため退院後のサービス調整となった

退院連絡ありの場合の連絡の時期



退院連絡はあったが調整方法に問題がある場合の内容

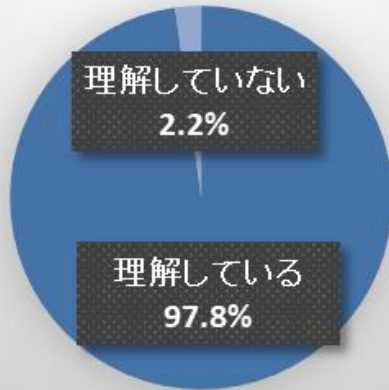


取組状況 (個人票)

【自由記載より】
取組まなかった理由

- ・急な入院
- ・短期間の入院
- ・頻繁に入院しているため電話のやり取りのみ
- ・入院したことが分からなかった

退院調整ルールを理解



【自由記載より】
退院調整ルールを理解していない理由

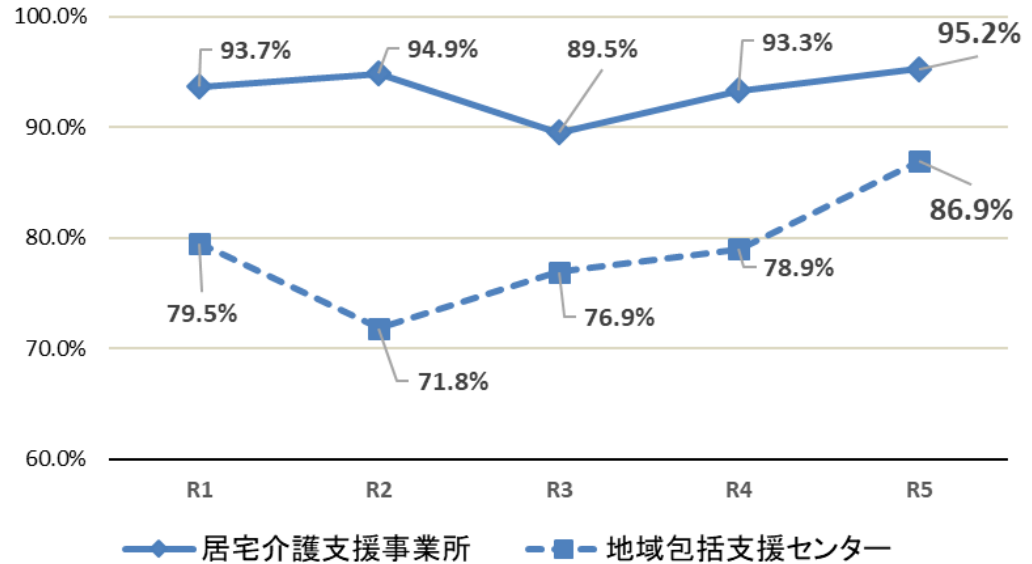
- ・新任のため
- ・異動して間もないため
- ・10数年ぶりに業務再開したため

退院調整ルール策定時から仕事をしている人と、策定後から仕事を始めた人で理解の差がある

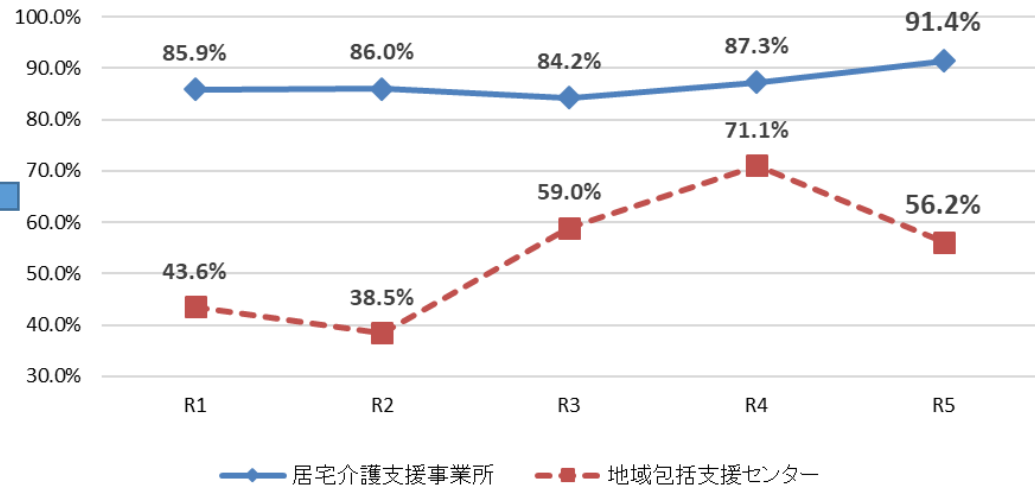
【自由記載より】
活用しなかった理由

- ・情報共有シート以外の様式を使用
- ・作成する余裕がなかった
- ・情報を追加して使用

退院調整ルール取組実施割合



情報共有シート活用割合



うまくいっていること・工夫していること（個人票）

退院調整ルールを手段とした医療介護連携の促進

①うまくいっていること

退院調整がスムーズであること、病院との関係構築、主治医や他の事業所との連携促進等

②工夫していること

- ・ 情報共有シートに、生活、介護力などの情報を詳しく書き込み、退院時に何にどれだけ調整が必要か、明確に分かるようにしている
- ・ 情報共有シートと併せて、詳細な調査票、家屋調査の状況や自宅環境の写真を送付している
- ・ 認知症の症状については、直近のエピソード、予想される行為など詳しく記載している
- ・ 顔の見える関係づくりのため、情報共有シートを持参できる場合は直接持参している
- ・ 入院中の様子を随時知らせてくれる病院があり、退院までの調整がしやすくなった
- ・ 「そろそろ退院調整に入ります」との連絡があり、退院後の準備に余裕を持てた
- ・ 退院後も一度は在宅の様子を伝えるようにしている
- ・ 情報共有シート送付数日後にケアマネから電話連絡、または病院の担当が決まったら電話連絡もらえるようFAXに記載している

情報共有シートの記載の工夫、添付書類の工夫、病院への連絡のタイミング、こまめな連絡（双方向）、直接持参

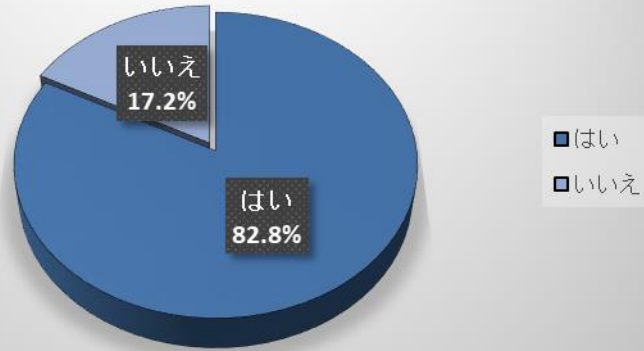
病院対象アンケート調査結果

- ◇目的：
県北医療圏退院調整ルールの運用状況を把握し、必要に応じてルールの見直しを行うため、病院における退院支援体制や取組状況等の現状把握を目的とした調査を実施する。
- ◇調査期間：令和5年7月
- ◇調査対象：退院調整ルール参加医療機関 30か所
- ◇回答数(回答率)：
29か所(96.7%) ※梁川病院R5.7.31閉院のため

退院調整ルール取組状況・ケアマネとの連携

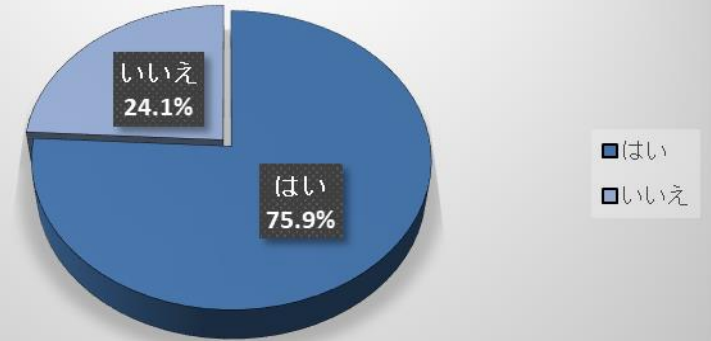
①退院調整ルールに基づき取り組みましたか

【自由記載より】
取り組まなかった理由
・病院独自の手順や様式で実施



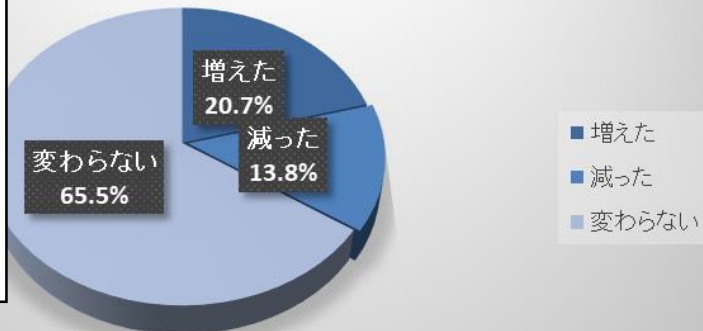
②情報共有シートは活用しましたか

【自由記載より】
活用しなかった理由
・看護サマリーで代用
・病院独自の様式がある



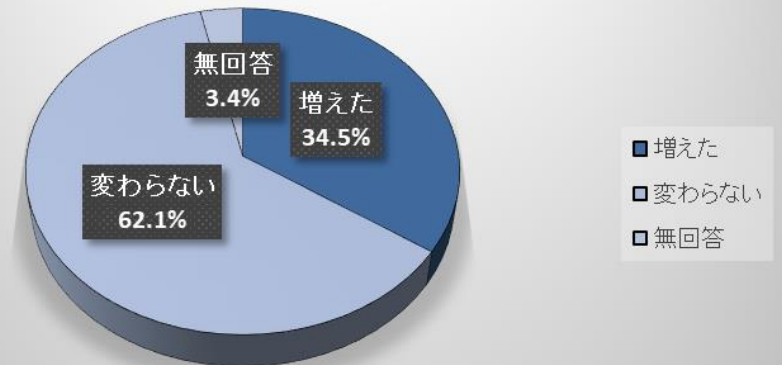
③退院前・退院時カンファレンスにケアマネが参加する回数は増えましたか

【自由記載より】
変わらない理由
・以前から参加している
・コロナ禍で減少し、感染対策を継続しているため変わらない



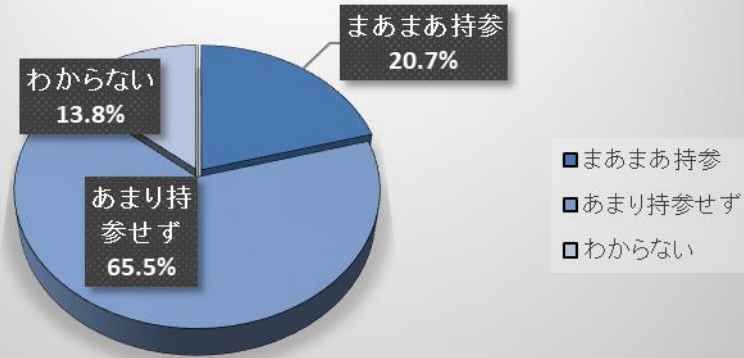
④退院時情報提供についてケアマネへの連絡は増えましたか

以前から取り組んでおり、取組が定着している

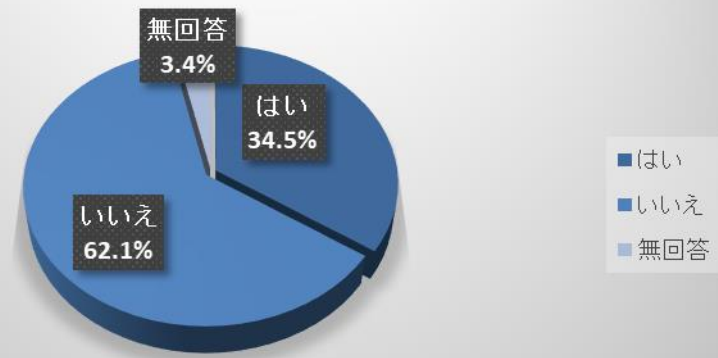


入院時「セット」の持参状況

⑥入院時、介護保険証+健康保険証+ケアマネの名刺をセットで持参していましたか



⑥一ア持参していなかった患者・家族に対して病院から周知しましたか



【自由記載より】

周知しなかった理由

- ・担当ケアマネの氏名や事業所名を聞き取りや情報共有シートで確認している
- ・病状説明や入院時の手続き等家族の負担が大きく、更に事業を説明しても理解が困難な場合が多い
- ・周知する余裕がなかった
- ・本人、家族が担当ケアマネの事業所名を知らないケースもある

市町村、ケアマネ等からの周知を継続して行う必要性

うまくいっていること、困っていること

①うまくいっていること

- 退院支援に早期から取り組め、スムーズに進められること
- 入院前の情報を本人や家族への関わりに生かせること
- ケアマネ等との連携がしやすくなった

②改善を要する点（困っている点）

- ケアマネとの情報共有が不十分なケースがある
- 調整が間に合わないケースがある
- コロナ禍によりケアマネと直接会う機会の減少
- 家族が担当ケアマネの所属を知らない

退院調整ルール運用について今後必要なこと (ケアマネ調査、病院調査から)

① ケアマネ調査

- ・ ルールの周知や共通理解の場づくり
- ・ 情報共有シートの見直し、あり方の検討
- ・ 外来通院時の連携ルールの検討
- ・ 精神科病院とのルール運用
- ・ 独居高齢者等の対応

- ・ ケアマネ、病院（院内他部署の職員含む）ごとの理解や対応のばらつきを無くす取組
- ・ 情報共有シートの見直し
- ・ 意向の確認や諸手続きをスムーズに行うことができない困難ケースの対応
- ・ 入退院のみならず、外来通院での連携のしくみ
- ・ 精神科病院との連携

② 病院調査

- ・ 困難ケース（独居、高齢者夫婦世帯、認知症等により、意向確認や手続きがスムーズにできないケースや経済面の不安があるケース）の対応
- ・ 情報共有シートの見直し
- ・ 院内職員の理解や連携の促進
- ・ 関係者向け研修会や関係機関との交流

退院調整ルールの手引きの見直しについて

- ・ 情報共有シートの見直し
- ・ 関係機関名簿の更新
- ・ 退院調整に関する診療報酬、介護報酬の更新
- ・ 身寄りのない人の支援に関する情報掲載